

平成 25 年 3 月 27 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会
第 7 回理事会議事録

日 時	平成 25 年 3 月 27 日 12:40~15:30
場 所	産業技術総合研究所 臨海副都心センター別館 11 階 多目的室 (東京都江東区青海 2-4-7 産総研臨海副都心センター別館)
出席 者	(本人出席) 松田理事長、浅井副理事長、渋谷理事、中川理事、ホートン理事、油谷理事、 川島理事、木下理事、佐藤理事、藤理事、中井理事、水野理事 (表決書提出) 有田理事、岩崎理事、川本理事、宮野理事、西川理事 以上 17 名出席扱 (オブザーバ) 清水監事、大林新理事、奥村新理事、小森新理事、関嶋新理事、瀬々新理事、坂井(事務局、書記)

議長 松田理事長 (定款第 35 条による)

配布資料 議案書、別紙資料 18 点、当日追加資料 2 点 (第 5 号議案に係る別紙 5-3 「提案書」の最新版への差し替え、) および「書面表決書に寄せられた意見」

議事

開会

議長により出席理事の数 (書面表決書提出者含む) が理事総数の過半数を超えていることが確認され、開会が宣言された。

審議事項

第1号議案 平成 24 年度事業報告および収支決算の承認

議長より、別紙 1-1 平成 24 年度の事業報告書 (案)、別紙 1-2 平成 24 年度財産目録 (案)、別紙 1-3 平成 24 年度貸借対照表 (案)、別紙 1-4 平成 24 年度収支計算書 (案)、別紙 1-5 平成 24 年度監査報告書、別紙 1-6 NPO 法人の監事の監査チェックリストについてそれぞれ説明があった。平成 24 年度認定試験委員長の藤理事より、別紙 1-7 平成 24 年度認定試験実施報告に基づき認定試験の報告があった。

議長より、別紙 1-8 研究会・地域部会別 24 年度収支決算および 25 年度予算案について説明があった。

以上第 1 号議案は、全員一致で承認された。

第2号議案 平成 25 年度事業計画および収支予算の承認

議長より、別紙 2-1 平成 25 年度事業計画 (案)、別紙 2-2 平成 25 年度予算 (案) について説明があった。

平成 24 年度認定試験委員長の藤理事より、平成 25 年度認定試験委員長の白井氏にかわって、別紙

2-3 平成 25 年度認定試験活動計画、別紙 2-4 認定試験 24 年度収支決算および 25 年度予算案 について説明があった。別紙 2-3 平成 25 年度実施体制のうち瀬々委員の所属が東工大に訂正された。別紙 2-3 会場 については、名古屋会場と長浜会場は隔年で交互開催となっており、今年度は順番でいくと名古屋だが、今年も長浜での開催を計画しているとの話があった。

また、第 4 回理事会 (H24.10.15 於タワーホール船堀) でも問題提起されたとおり、現在の試験を、役に立つ技術者認定にするにはどうすればよいか、国の認定、事務局にかかる費用の負担、今後の試験をどうしていくかといった検討課題が多いので、学会内にワーキンググループ (WG) をつくって検討したい、との提案があった。

〔認定試験に関する質疑・議論〕

- ・現在の認定試験委員会は試験問題づくりで目一杯である。(藤)
- ・認定試験委員会はミスをしないためにも毎年の試験運営に集中する必要がある。一方で、継続するか、対象者、波及効果についてもきちんと考えるべき。試験委員として関わっていると、この試験がどこに向かってやっているのか不安になる。また委員長秘書は事務局業務で本当に大変である。(瀬々)
- ・試験委員としてではなく学会理事の立場から見ると、継続すべきか考える必要があると思う。やっているから続ける、ではなく、合格者を活用できるような、継続してやっていける仕組みがほしい。事務はそんなに大変とは思っていなかったが、ML での議論をみていても必要性を疑問に思う理事がいるのも当然かと思う。意義づけなど議論してもらうことは良いと思う。(中井)
- ・第 4 回理事会で今年度の認定試験実施は承認されている。来年は? (会長)
- ・議論は今からやってほしいので WG を提案したい。(藤、瀬々)
- ・第 4 回理事会で、ホームページを改善するなどアイデアが出ていたがどうなったか? (水野)
- ・企業の人の合格者の意見を聞いたかったが、前回は受験者が企業の人かどうかわからず改善できていない。次回は改善できる。瀬々委員の意見は抜本的に検討したいというのだ。(藤)

続いて 2013 年会担当の中井理事より別紙 2-5 年会開催計画 に基づき年会についての説明があった。JSBi 学会年会予算案と役員案が提示され、年会の方向性について意見する「組織委員」と発表内容を審議する「プログラム委員」のメンバーが報告された。

会長より、JSBi 年会開催規定により、年会予算は理事会で承認する必要がある旨追加説明があった。また JSBi は連合大会に 100 万円を一旦拠出するが、参加費収入増が見込まれるので後日の精算でこのお金の一部はもどってくると見込んでいるという説明があった。

以上の後、第 2 号議案は全員一致で承認された。認定試験の WG については別途検討することになった。

第3号議案 幹事の選任

議長が諮ったところ、原案どおり全員一致で承認された。

第4号議案 沖縄地域部会長交代の承認

議長が諮ったところ、沖縄地域部会活動を行っている川島理事より、つぎのとおり、承認を受けるにあたっての補足説明があった。

「ジュニア会員」については、沖縄では高専生への教育に力を入れているが、いろいろ難しいので、沖



縄地域会員からの相談にのってほしいという要望がある。また、沖縄高専では認定試験合格と卒業単位認定がすでにリンクしており、毎年最年少合格者を更新するなど活発に行っているので、いい意味でポジティブに相談する場があつたらいいと希望している。

会長より、認定試験については今後検討していくことになる、との発言があった。

以上の議論の後、第4号議案は全員一致で承認された。

第5号議案 日本学術会議への学術大型研究計画応募の承認

議論の結果、第5号議案は次のように修正され、修正案は出席理事の過半数の賛成により承認された。

また本件の承認について回答する際に、次の付帯意見も合わせて連絡することが要望された。

==

承認された第5号議案修正案

日本学術会議 統合生物学委員会 バイオインフォマティクス委員会で議論されてきた国立バイオインフォマティクス研究所(仮称)構想を、日本学術会議の学術大型研究計画の公募に応募するにあたって、評価基準の一つに「科学者コミュニティの合意」という条件があるため、日本バイオインフォマティクス学会の名前をあげることに関して承認する。

==

付帯意見

提案書中、日本バイオインフォマティクス学会の名前をあげる項目は、項目9（主な実施機関と実行組織）ではなく、項目11（科学者コミュニティの合意状況等）にしていただきたい。

==

〔第5号議案に関する議論の概要〕

提案書のタイトルが「国立バイオインフォマティクス研究所」であることに関しては、ポジティブな意見が多かった。（「バイオインフォマティクスの大型中核組織が日本にないことの弊害は認識している」「できないよりはできたほうがいい、と言う点は同意する」「バイオインフォマティクスの知名度が全国的に高いわけではないので国研ができたらよい」など）

一方、提案書の内容は準備不足で賛成しかねるという意見が多かった。（「どの程度重要な提案なのか、この機会を見送ると次の機会はいつくるのかわからない」「時限研究組織は最終的には弊害があるという意見もある。今回の提案は国策の施設計画とならぶものなので、期限がきて終了、ということにはならないはずだが、よくわからない」「実施機関を学協会が担うのは違和感がある、無理だと思う」「構想が大きいのに提案書の内容が日々更新されてきてバタバタしている」「ブームには乗っておいたほうがよいのではないか」「しかし新型測定機を最初に購入してしまうと立ち上げが大変だったりするが、同じことになるのではないか」「バイオインフォマティクスの定義、範囲、この研究所のフィロソフィーなど、検討不足の点が多すぎる」「バイオインフォマティクスの範囲を言い出すとまとまらないだろう」「時間があれば、またJSBiが今後どの程度関わるかにもよるが、提案書を全面的に書き直したい」など）

議事録署名人の選任

議長より浅井理事と渋谷理事を議事録署名人に選任したい旨の提案があり、全員の賛成により承認された。



以上

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において次に記名押印する。

平成25年3月27日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

議長 松田秀雄印

議事録署名人 浅井潔印

同 渋谷香朗印

